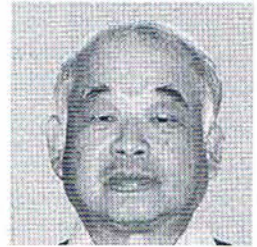


# 中経 論壇

経営支援NPOクラブ監事  
山口 浩利



最近のニュース、紙上に盛んに登場する、忖度(そんたく)と云う古めかしい言葉は、ずいぶん昔に学んだ記憶がある。小学校を卒業する時、担任のT先生がクラス全員の一一人のノートに、万年筆で丁寧に「詩人の目・楽聖の耳・神の心を持ちたい」と書いてくれた。私の番の時、先生は書きながら口頭で「君は他人のことを思いやることが出れば素晴らしいと思うよ。難しく云うとソソクだけ」と付け加えた。その時、わんぱく坊主は「損得」のこ

とかなと思いが、自分はそんなに利己主義だとは思っていないのにと、やや不満を感じた。高校の漢文の時間だったかに、この言葉が出てきて、T先生のことを思い出し、改めて先生の意図が少し分ったような気がした。

## 日本人の謙虚さ？

国企業(顧客であれ発注先であれ)との交渉で必要な自己主張が出来ずに、その結果自社に損失をもたらすことになる。プロジェクトの赤字決算の事例として多く見てきた。

最近、超大手企業が、米国で子会社の巨大な隠れ赤字を見抜けなかったため、危機に陥っている例などは、正に日本流の忖度が災いして、肝心の調査や質問の突っ込みを欠いたことに起因すると推察している。

さて、国内のものづくりの分野では、高齢化と人手不足のために、中小企業の優れた多品種少量生産能力が減退し、企業の存続まで困難になるといいう危機感がある。大手企業の経営者は、自社と海外の部品サプライヤーだけで、生産活動が維持されるとは思っていないだろうか、どうすれば中小企業が課題を解決して存続できるのか、忖度をして欲しいと思う。例えば中小企業向けのロボット開発の支援など。

今、話題の文科省関連の問題は、文科省が権威者に対して限度を超えた忖度をした結果なのか、それとも権威者側が過度の忖度を強いたのか、どうも水掛け論になりそうだが、元々任命権を持つ部署に対して、任命される側が特段の忖度をする背景が存在するわけだから、それを踏まえた仕組みづくりが先決だと思

う。

締めとして付言。元々人や国が他人や他国のことを忖度する心があれば、世の中に争いごとや戦争は起こらないはずで、「SONTAKU」が良い意味で、「MOTTAINAI」と同じように国際用語として拡がって欲しいと思う次第である。

# 「忖度」も良し悪し